資料３

学校選択制における「通学区域」に関する主な意見
（第２回熟議『学校選択制』平成24年５月24日）

・通学区域は、コミュニティを中心に様々な地域の交流の場であるが、防災の視点からも考えるべきで、その機能をなくしてしまって良いのかという視点もとりいれた議論をしていくべきである。

・地域の方は、自分たちの学校や町を愛し、誇りに思う子どもたちに育てていきたいという思いが非常に強い。子どもたちの登校の時は、交通量の多い交差点に地域の方と保護者の方が見守り活動をしていただている、あるいは地域の伝統的な行事に子どもたちも参加する中で、地域に愛着をもってもらう活動も行っておられる。学校選択制を実施した場合、それらの活動がどのようになっていくのかなど課題が多い。

・学校選択制によって、通学区域外の学校を選択する子どもの割合が、仮に10％ぐらいであれば、現在、私立の学校に行っている子どもたちと同じような状況だと思うが、その子どもたちは、地域に関わっていない。それが拡大するとなると地域との繋がりや、防災拠点としての機能が崩れると思う。

・学校選択制となった場合、通学区域外から登校する子どもたちの安全が気になる。

・地域の方々には、学校も保護者もお世話になっており、見守り隊や学校の行事は、地域に支えられている。

（第３回熟議『学校選択制』平成24年６月７日）

・従来の通学区域を残すか残さないかが、保護者にとって一番の問題である。

・通学区域をなくせば、自宅から一番近い学校に通えなくなるということも起こりうるので、本当にすべてがバラバラになってしまうのではないかと心配する。

・はぐくみネットや学校元気アップ地域本部事業の取り組みの成果がある中で、学校が地域コミュニティの中心であること、本市の指定外基準は、他都市と比べて制限が多いので、それを緩和するだけで保護者の希望に応えられるのではないかということ、各区の教育フォーラムの報告では、反対意見が圧倒的に多いこと、この３点から通学区域は残すべきである。

・学校運営においても、家庭訪問や、その他いろんな問題が起こり、懸念されることが多い。

・先ずは、自分の通学区域の学校に行くことは担保されて、別の学校に行くのがオプションであるという方が良いのではないか。

・各区の教育フォーラムであった意見としては、通学区域を残すという意見がほとんどだった。

・一番反対が強いのは、地域の意見なので、通学区域をなくすことを考えて議論するのは、話が大きすぎる。

・通学区域をなくしてしまうのは、たいへん混乱するのは間違いない。

・最初から自由に選択できるとなると、学校が混乱すると思う。学校の評判だけで判断されることになり、偏りが大きくなった結果、大規模な学校では、教師の目が行き届かないという問題が生じ、次は小規模な学校が良いということになって流動化する現象が起きれば、学校教育は無茶苦茶になるのではないか。